

準早期水稻（夢つくし）管理情報 NO.2

1. 生育概況

6月上中旬の気象は、平年と比較して平均気温はやや高く、降水量、日照時間ともに多くなりました。
6月25日の生育調査では、平年に比べ茎数は同等～やや多く生育は順調でした。なお、今後の生育については、次のとおりと予想されます。

品種	田植え	穂肥時期の目安 (出穂前 20～18 日)	平年出穂期
夢つくし	5月19日頃	7月 6～ 8日頃	7月26日頃
	5月26日頃	7月10～12日頃	7月30日頃
	6月 2日頃	7月13～15日頃	8月 2日頃

2. 水管理

下表を参考に水稻の生育にあわせて水管理を実施してください。

タイミング	水管理	ポイント
中干し後～穂肥の時期	間断かん水	湛水→自然落水→湛水の繰返しを行いましょ。う。
出穂前後 1 週間	湛水	生育期間で一番水が必要な時期のため、水を切らさないようにしましょ。う。
出穂 1 週間後以降	間断かん水	この時期の根の活性が登熟に大きく影響するため、水を溜めっぱなしにしないようにしましょ。う。

3. 穂肥

基肥に「緩効性一発肥料（エムコート 2000、有機特栽米エムコート 256 号、有機エムコート 355 号等）」を施用した場合は穂肥の必要はありません。ただし、出穂前 10 日頃になっても葉色が薄い場合は、プラザにご相談ください。

基肥に「速効性肥料（くみあい化成ベスト 444、有機特栽米基肥 O17 号等）」を施用した場合は下表を参考に穂肥を施用してください。

品種	穂肥時期の目安				肥料 及び 施用量 (以下のどちらかを施用)
	葉色	幼穂長 (mm)	出穂前 日数	施用時期	
夢つくし	3.5	2～5	18～20 日	生育概況の表を参照	NK 化成 2 号 15kg/10a 有機入特栽米追肥 O47 号 20kg/10a

※なたね油粕を使用する場合は、施用時期を上記目安より更に 7～10 日早め、施用量を 30kg/10a とします。

★穂肥のポイント

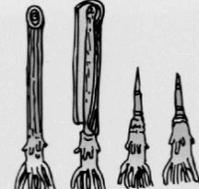
- 右図を参考に、各ほ場で幼穂長を確認して下さい。
- ほ場の地力・水稻の葉色により、穂肥の施用時期・施用量は調整して下さい。
- 葉色が濃いほ場（4.0 以上）は、施用量を減らすか、施用を止めましょ。う。

【幼穂の長さを確認する】

〈その1 カッターなどで割る〉



〈その2 葉鞘をむく〉



調査時 幼穂長	穂肥時期 の目安
0.5mm	6～7日後
1.5mm	4～5日後
2.0mm	1～2日後
3.0mm	0～1日後

4. 病虫害防除

下記によりいずれかの体系で必ず防除してください。また、薬剤防除のほか、斑点米カメムシ対策として、出穂 14 日前の畦畔除草を徹底しましょう。

【基幹防除】

対象病虫害	防除適期	体系・農薬名	使用量(10a あたり)	使用時期
いもち病 紋枯病 ウンカ類 カメムシ類	出穂期～ 穂揃期	粉 ダブルカットバリア トリホソ粉剤 3DL	3～4kg	穂揃期まで
		液 (3 剤混用) ダブルカット707A モセイソ707A イクソード 707A	[希釈水量 140ℓ] 140mℓ (1,000 倍) 93mℓ (1,500 倍) 70mℓ (2,000 倍)	穂揃期まで 収穫 21 日前まで 収穫 7 日前まで
		粒 (どちらかを散布) ゴウツェンスター-粒剤 ワイドパソ豆つぶ	3kg 250g	<u>出穂 5 日前まで</u> (但し、収穫 45 日前まで) 収穫 35 日前まで

※ゴウツェンスター-粒剤の使用時期には、十分注意して使用するようにしましょう。

(ウンカ類、カメムシ類を対象とする場合 (イネカメムシ対策はページ下部参照))

対象病虫害	防除適期	体系・農薬名	処理量(10a あたり)	使用時期	使用回数
ウンカ類 カメムシ類	出穂期～ 穂揃期	粉 イクソード 粉剤 DL	3kg	収穫 7 日前まで	3 回以内
		液 イクソード 707A	[希釈水量 140ℓ] 70mℓ (2,000 倍)		
		粒 スタークル粒剤	3kg		

※粒剤は粉剤、液剤よりも 1 週間程度早めに散布しましょう。

※スタークル剤(粉剤・液剤)を散布する場合は、ミツバチへの危害防止のため、稲の開花期の散布は避けてください。

用語の説明

「出穂期」: 全莖数の 40～50% が出穂 (止め葉の付け根から穂先が出現) した日

「穂揃期」: 全莖数の 80～90% が出穂 (止め葉の付け根から穂先が出現) した日

【補正防除】

基幹防除のみでは病虫害の発生が抑制できない場合は、栽培こよみ掲載の補正防除を検討しましょう。

特に近年、増加しているイネカメムシは水稲品種にかかわらず収量・品質に大きく影響を及ぼしているため、ほ場を十分確認し、発生が認められた場合は防除を実施しましょう。

《イネカメムシについて》

特徴	・成虫の体長は 12～13mm、幅 5～6mm で体色は茶褐色
生態	・雑木林等の越冬地から出穂前後の水稲に飛来し、水稲の穂を吸汁 ・出穂の早い品種から順に遅い品種へ移動し、被害を及ぼす
被害	・出穂期に被害にあった場合、不稔籾が発生し収量が低下 ・乳熟期に被害にあった場合、斑点米が発生し品質が低下
対策	・「 <u>出穂期</u> 」と「 <u>出穂期の 1 週間後</u> 」の 2 回防除が基本 ※粒剤は効果発現に時間を要するため上記の 1 週間前に施用 ・防除薬剤は「 <u>エクシード剤</u> 」か「 <u>スタークル剤</u> 」を使用

発生注意!



イネカメムシ

農薬安全使用のポイント

- ① 散布前は農薬ラベルを確認しましょう
- ② 散布時は近隣作物への飛散に気をつけましょう
- ③ 散布後は散布器具を洗浄しましょう
- ④ 防除履歴を記帳しましょう
- ⑤ 散布作業は暑い日中を避け朝夕の涼しい時間帯に行いましょう